

## 神戸高校同窓会から「学校名銘板」を寄贈していただきました

令和3年10月16日

（「学校名銘板」除幕式）

14時半から、「学校名銘板除幕式」が開かれ、新しい銘板が披露されました。

これは、同窓会が、本校創立125周年を記念して、バス通りから地獄坂に上がる角に立てられた銘板を新調しご寄贈くださったものです。本校の正面玄関の雰囲気と湛えた、堂々たる銘板です。ありがとうございました。

本校生は皆、毎日この新しい銘板を見て登校します。卒業生の方々が母校に立ち寄られたときには、本校の歴史と伝統にふさわしいこの銘板が出迎えてくれます。いずれ本校生になる中学生たちは、憧れを持ってこの銘板を見てくれるだろうと思います。

除幕式には、同窓会の皆様に加え、PTA本部役員の皆様と学校職員が参加させていただきました。



（新しい銘板について）

この銘板をデザインされたのは、本校29回生の清水正人様です。除幕式の後、同窓会長様から感謝状を受けられたときに、この新しい銘板について説明してくださいました。以下に要約して記載します。

【校名の文字】正門の文字の字体を使いました（縦書きを横書きに変えたので、少しだけ手を加えていますが）。学校の入口と正門が、一体の印象であるよう、同じような雰囲気と人々を迎え入れるよう考えたものです。ステンレスを用いています。

【文字の台】文字の台は、備前焼を使っています。棧切（さんぎり）という焼き色です。炎が下から上へ登っていくような模様は、若い魂の燃える思いに通じるものです。伊勢崎創さんの作です。

【土台】1つの御影石を切って、再び元のようにくみ上げています。御影石には珍しく、流れるような石目を持っています。この上に向かって流れるような模様が、備前焼の模様へと一体となってつながるようにできています。

【天板・つなぎ】天板はつや消しのステンレスで、文字とマッチするようにしました。台と文字台のつなぎは、磨き上げたステンレスを使い、見入る自分の姿を写すことができます。

このように、この銘板には、様々な意味が込められています。神高に新しい宝が加わりました。

同窓会の皆様、清水様、ほんとうにありがとうございました。

